

Session 名 SCOPH Session

参加者名:

遠藤理紗(2013 年度ぬいぐるみ病院プロジェクト責任者)

増田由菜(2012 年度 Africa Village Project 責任者、2013 年度 SCOPH 責任者)

園田なおみ(2012 年度 SCOPH 責任者)

* SCOPH Session とは...公衆衛生に関連するトピックを取り上げ、レクチャーやディスカッションを交えて理解を深めるセッションです。また、世界の SCOPH スタッフが行っている活動をお互いに紹介しあう機会でもあります。

Day 2

Agenda

■ SCOPH Introduction

IFMSA 本部の SCOPH Director の Kitti から、SCOPH についての紹介がありました。

- ・ IFMSA における SCOPH の成り立ち
- ・ 2012-2013 SCOPH Team
- ・ 前回 AM2012 以降の半期活動報告
- ・ 次回 AM2013 までの半期活動予定
- ・ World Days
- ・ 「Public Health」とは？

■ Regional Meeting

Asia Pacific 地域の参加者が集まり、模造紙にそれぞれの国の地図を描きました。同時に、各国の活動についても触れました。日本からは、Teddy Bear Hospital (ぬいぐるみ病院) や、Africa Village Project について紹介し、各国で同様の活動があれば情報を共有してほしいと伝えました。

コメント

Small working groups では、私は Teddy Bear Hospital (TBH・ぬいぐるみ病院) に参加しました。IFMSA 公式の TBH ロゴについて投票した後、ぬいぐるみ病院のマニュアルについて紹介を受けました。マニュアルについてはさほど日本と変わりありませんでしたが、ファンドレージングに関しては日本と海外で大きな違いを感じました。日本では、基本的にファンドレージングをプロジェクト単位でも行っておらず、プロジェクトの費用や大学でのぬいぐるみ病院の活動費用はほとんど学生自身が出していると話すとても驚かれました。(遠藤)

Regional Meeting では Asia Pacific 地域の各 NMO がそれぞれ活発な、そして、その地域のニーズに基づいた活動が行われている事が印象的でした。また、AVP (Africa Village Project) の紹介をすると数人が興味を持って個人的に話を聞きにきてくれ嬉しく思う反面、AVPI について改めて考え直す機会になりました。

■Small Working Groups

新しく or 深く、考えていきたい SCOPH のトピックを、5 つの小グループに分かれて話し合いました。Youth migration / Teddy Bear Hospital / First Aid / Tobacco Think Twice / Advocacy

■Mental Health (with SCORP)

今回の SCOPH session の大きなトピックの1つである「Mental Health」について、4 つのグループに分かれて、各国での取り組みを情報交換しました。

- ・ 10/10 World Mental Health Day
- ・ 1年通して出来るキャンペーン
- ・ 中高生へのピアエデュケーション
- ・ 医学生に向けたレクチャー

Small Working Groups-Youth migration では各国の移民の状況について話しました。日本は世界に比べ移民が極端に少ない国ですが、世界各国の参加者から、国から出て行く人が多いのか、入ってくる人が多いのか、またそれぞれの問題などを聞く事ができて面白かったです。(増田)

私が参加したSmall Working Groups1では、Advocacyを扱いました。これは、「政策を作る側に訴えて、トップダウンで社会を変えていくこと」です。欧米諸国の学生はすでに盛んに取り組んでいます、アジア地域ではようやく取り組み始めた段階です。Mental Healthは、日本ではネガティブなトピックとして扱われがちですが、海外では医学生・中高生・一般大衆に対して理解を深めるためのポジティブな活動を行なっている点で、大きな差を感じました。(園田)

Day 3

Agenda

■External 1

American Public Health Association、World Public Health Association で活動しているアメリカの学生から、両組織について紹介がありました。

■External 2

IFMSA で WHO 担当の Renzo から、IFMSA と WHO の関わりについて紹介がありました。IFMSA は、WHO から international NGO として公式に認められています。IFMSA の学生の WHO internship や World Health Assembly への参加が盛んに行われているそうです。

コメント

Parallel Session では migration に参加をしました。Migration では、移民の言語や医療費などの問題について話し合いました。母国語しか話すことのできない移民に、例えば英語などの言語を強要することは混乱を招くことにつながりますが、それだけでなく移民たちのアイデンティティの問題に関わるという意見が非常に印象的でした。(遠藤)

External 2ではWHOで働く事についての紹介もありました。その中でもGlobal, Regional, LocalのどのレベルもWHOにとって重要な仕事であり、世界総会の参加者なら各国のLocalレベルで働ける可能性を

■Parallel Session

3つのトピックに分かれてグループディスカッションを行いました。

- ・ migration
- ・ cancer
- ・ Project management

十分持っているという話がありました。国連の機関であるWHOからLocalレベルの重要性を聞いたのが印象的でした。

Parallel SessionのCancerでは、先進国と途上国での癌に対する治療や対策の状況をそれぞれシェアした後、改善策を考えました。医療機関のアクセスや一般的な医学知識、認識の低い途上国では早期発見、早期治療を促すことの難しさが厳しい問題として上がりました。(増田)

Parallel SessionのProject managementでは、自国の一般大衆をターゲットとして、調査・宣伝・実践・評価をしているProjectが海外には多いと気付きました。そのため、HLP(Healthy Lifestyle Project)や、SCOPH-Japan全体の活動で役立つような経験談を聞くことができました。(園田)

Day 5

Agenda

■Message from seniors

2代前のSCOPH Directorであり、1代前のPresidentを務めたChrisから、SCOPH Session参加者へアドバイスをいただきました。

- ・ Public Healthをより学ぶために、Summerschool/internship/conference / 他SCOのイベント等の機会を利用してほしい
- ・ SCOPHは、IFMSAの中でも多くのtransnational projectやinitiativeを出しており、可能性を秘めたメンバーが集まっている

コメント

Message from seniorsでは、「今となりにいる人を大切にすること」などあたたかい言葉をいただき、貴重なお話しを聞くことができました。

SCOPH TrainingではProject managementに参加をしました。Projectの最終的な目的とは何か、そこに向かうにはどんなツールが使えるかをブレインストーミングし合った後、挙げられたツールの中でもコミュニケーションに焦点を当てて話し合いました。SkypeでのMeetingも必要不可欠なコミュニケーションの1つだが、Face to Faceが一番大切なコミュニケーションだという結論になりました。(遠藤)

■SCOPH Exchange

2009年から始まったプロジェクトで、留学先の国で特有の Public Health issue について学びを深める活動をしているそうです。派遣元の国は、ノルウェー/オランダ/ベルギー/ルーマニア/オーストラリア等ヨーロッパが中心で、発展途上国で学ぶことが多いとのことでした。SCORE や SCOPE のデータベースを活用する可能性、派遣先への影響、「発展途上国に行く」という視点について等、多くの議論が起こりました。

■Parallel Session

2つのトピックに分かれてグループディスカッションを行いました。

Global Health / Strategy

■SCOPH Training

SCOPH の活動をよりスムーズに行うためのスキルを高める Training を行いました。

Financial / Peer Education Training / Project management

SCOPH Exchange はもっと大きいネットワークに広げ世界各国の多くの学生に機会を与えてほしい、そしてIFMSA-JapanのSCOPHianにも強く興味を持ってもらえるプロジェクトではないかと思いました。しかし、日本がSCOPH Exchangeに参加するには、まず日本のPublic Health issueを学び、それぞれ問題への対策や日本のSCOPHプロジェクトのアピールなど日本から世界の学生へ何をどうシェアしていくべきかをきちんと考えなければならないと思いました。(増田)

Parallel Session では、Global Health を選びました。私が初めて参加した2年前の世界総会で始まった「世界の Health Equity を考えよう」という動きが、政策提言としてIFMSAで採択され、プロジェクトとなり、花開いた様子を聞くことができました。生まれた環境や社会によって健康でいられるかどうか違ってきってしまう世界が今存在し、そのギャップを縮めるために取り組んでいる人達がいること再確認しました。

SCOPH Training では、SCORA で熱心に行われている Peer Education を学びました。大人と子どもの架け橋として「一緒に考える」ことの大切さを教えてもらいました。今後は、SCOPH が扱う公衆衛生のトピックについて中高生に問題意識を持ってもらうためにも、日本にも取り入れていきたい活動です。(園田)

Day 6

Agenda

■ Small Working Groups の Outcome
Youth migration / Teddy Bear Hospital / First Aid / Tobacco Think Twice / Advocacy

5 つのグループそれぞれが、話し合いで得られたことを発表しました。

■ 振り返り

5 日間の SCOPH session で行なってきたことを、ムービーを見ながら振り返りました。

■ Check out & Evaluation

SCOPH session の終了を前に、Small Working Groups の仲間内で 1 人ずつ感想を発表しました。同時に、SCOPH session の満足度を評価しました。

■ Group Picture

Session 参加者全員で集合写真を撮り、最終日を終わりました。

コメント

Small Working Groups の Outcome では Teddy bear hospital に参加しました。ぬいぐるみ病院では、これからいろいろな NMO のデータを集め、マニュアルを改善しようと決意を立て、Small Working Groups 参加者の連絡先をファシリテーターが集めました。世界総会でのつながりが 1 週間で途切れるのではなく、この先も Teddy bear hospital の改善ために頑張っていける仲間ができたことは大きな収穫でした。(遠藤)

Small Working Groups-Youth migration では、各国の migration の状況や、医学生の migration (留学や、将来どこで働きたいか) について調査を行う事になりました。世界にはその国出身の学生だけではなく、migrants として他の国で学ぶ医学生も一般的にすることがわかり、ほとんどが日本人学生である日本とは違う様々な視点を感じる事ができて面白かったです。(増田)

Small Working Groups の Advocacy では、各国で行った活動の情報共有をするための手段 (facebook グループ、Google Drive) が整えられました。私も含め日本の学生は Advocacy になじみがないので、この機会を活かして勉強させてもらいます。

この日一番印象に残ったのは、SCOPH oath (宣誓) です。多様なバックグラウンドを持ち、それぞれ活動に励む、SCOPHi ans は Public Health という大きな輪でつながっているのだと、自分もその一部なのだ と誇らしく思いました。(園田)

総括

■遠藤理紗

初めての世界総会で、全体の人数の多さと参加者の積極性に圧倒されましたが、その分たくさん元気もらいました。また、日本だけではわからなかったことや思いつかなかったこと、多くのことを吸収できた1週間でした。

Small Working Groups で参加をしていた Teddy bear hospital では、日本と海外の違いを直接感じる事ができました。特にファンディングに関しては大きな違いを感じました。日本のぬいぐるみ病院ではファンディングは行われていませんが、海外では大学単位の活動でもスポンサーをつけるなどファンディングがとても盛んに行われていました。その他にも、ポルトガルではぬいぐるみ病院啓発のために絵本を作っていたり、台湾では健康について教えるときに体を動かすことを大切にしていたり、日本に取り入れたい素晴らしい活動に出会うことができました。そして海外の活動と日本の活動を比較することで、学生の情報共有のためのイベントがあることなど日本の強みを知ることもできました。

世界総会を通して、日本での活動のヒントが多く得られました。この貴重な経験を生かし、来年度も活動に励みたいと思います。

■増田由茉

初めて世界総会に参加し、様々な刺激を受け本当に有意義な時間を過ごせました。また、日本のSCOPHについて改めて考えさせられる機会となりました。

特にSCOPH sessionでは各国の活発なプロジェクトを始めとして日本ではなかなかみられないAdvocacy、Campaignなどの活動を知る事ができてとても刺激的でした。それぞれの活動について社会的意義がきちんと考えられていて、また社会のリアクションを恐れずに行動しているという印象でした。

一方で、日本のSCOPH、そしてSCOPHの各プロジェクトは何を目的として、どう社会にアプローチして行きたいのかというところの詰めが世界に比べて弱いと感じました。その理由には日本の国民性、文化、学生の活動に対する社会の反応なども多いに関わってくるとは思います。社会に還元できる活動を行って、世界にアピールしていきたいと強く感じました。「社会に還元できる」というのは時におごりやエゴに捉えられがちになりますが、実際には「何かを還元するという目標をもって活動しないといつまでも自己満足にしかなり得ない」と感じられたことが、今回の世界総会に参加して一番大きな収穫でありました。世界の活動から学べるものは盗み、そして日本の活動の強みは生かし、よりよいSCOPH-Japanを目指していきたいと思います。

■園田なおみ

インプットに全力をかける、と挑んだ5回目の世界総会。SCOPH-Japanの強みと弱みをまざまざと感じる1週間となりました。振り返れば、過去4回で感じた「日本は海外と、どうしてこうも違うのか」というモヤモヤがずっと私の中にくすぶっていました。しかし、日本のSCOPH責任者として1年間活動後、この世界総会へ参加したことで、私なりにその意味を解釈することができ、視界がクリアになったような気がしています。

世界のSCOPHが携わっているProjectは、大きく2つに分けられます。ボトムアップで影響を与える「Community Action Project」と、トップダウンで影響を与える「Advocacy Project」です。両者とも狙いは、「社会」「環境」「人々の意識」などを変えることにありますが、手法や対象が異なります。SCOPH-JapanのProjectは、どちらにも当てはまりません。どうして当てはまらないかと言うと、影響を与える対象が「自分」であり、もう少し広く考えると「医療系学生」であるからです。(唯一、ぬいぐるみ病院プロジェクトは子どもたちへのアプローチを通じて、社会へ影響を与える存在と言えるかもしれません。)

ではなぜ、SCOPH-Japan、ひいては日本の学生が、自分を越えた世界に影響を与えることにためらいを覚えるかと考えてみると、不満がない/関心がない/変えられるわけがない…といった気持ちを抱いているからではないでしょうか。実際、日本の公衆衛生事情は他国と比べて良い方であることは間違いなく、医療系学生のようなステータスのある私たちが生きにくさを感じることはめったにありません。少なくとも「私たちが動かなければ、大変なことになる」と危機感を持つ人はほとんどいないと思います。

そんな中で、SCOPH-Japanのメンバーが一步進んでいると思うのは、「何とかしたい」と思う事柄があるということです。そして、実際にその思いをカタチにして活動を生み出していることです。ただ、活動の形式が、社会全体や政治家や専門家や一般大衆に受け入れやすい形ではなく、医療系学生に受け入れやすい形で行われているので、海外の活動より影響力の少ない小規模なものだとみなされてしまうのです。

そこで大切なのが“Think globally, Act locally”です。これは言い得て妙で、「社会全体を見渡す広い視野を持ちながら、隣にいる人達と一緒に問題に取り組んでいこう」という、両方あってこそその車の両輪なのだと思います。日本は、Local(自分自身、医療系学生)にフォーカスすることが得意です。医療系学生だからこそできる「Medical students oriented project」が日本らしさなのでしょう。これに、NationalやGlobalを見据えた視点をより意識することで、胸を張って世界に発信できる活動へと進化を遂げてほしいと思いました。

IFMSA 62nd General Assembly March Meeting 2013 Report



↑ SCOPH introduction



↑ グループディスカッション



↑ Project Fair (Smile-X project)



↑ SCOPH flag